

KEN-KYO.COM

135

2026



北見建設業協会 R8・6・29 発行

臨時総会

25日、臨時総会が開催され、会員脱会の報告事項と、議案1号、会員の代表者変更申し出について審議の結果、いずれも満場一致で可決承認された。

1.会員の脱会について

舟山 亮真氏（舟山組）が脱会

2.会員の代表者変更

新会員 小原 智氏（北洋建設 代表取締役）

聖徳太子祭



25日、聖徳寺に於いて恒例の聖徳太子祭が開催され、参加者全員で工事の安全を祈願した。今年の祭典委員長、天池鉄也氏(吉崎工業所)より『聖徳太子の生涯は、574年から622年までの約半世紀にあたり、この時期は日本の歴史において古墳時代後期から飛鳥時代初期で、当時の日本は、豪族間の権力争いが激しく、蘇我氏と物部氏の対立や天皇継承をめぐる混乱が続いていた。特に、仏教の受容をめぐる崇仏論争が起こり、保守的な物部氏と仏教推進派の蘇我氏の間で対立があった。聖徳太子は、推古天皇の摂政として政治の中心に立ち、冠位十二階や十七条憲法の制定、遣隋使の派遣などを通じて、天皇を中心とした中央集権国家の基礎を築いた。また、仏教の振興にも尽力し、法隆寺の建立などを通じて日本仏教の発展に大きく貢献した。この時代は、日本国家の形成期ともいえる時期であり、豪族の合議制から天皇中心の政治体制への移行が進められた重要な変革期であった。聖徳太子はこの変革の中心人物として、政治・文化・宗教の各分野で大きな影響を与えた存在であった。』と、講話を拝聴した。





6月の動向

6月理事会 14:00 終了

月下独酌

▼ジャズの話です。ソニー・ロリンズが5月25日、逝去した。1957年にリリースした代表作のタイトルから「サキソフォン・コロッサス」（サックスの巨人）の異名を持ち、そのたおやかなトーンと歌心に満ちた即興演奏で日本でも最も愛されたジャズ・レジェンドの一人であった。▼1951年にリーダーとしてプレスティッジで初録音『Sonny Rollins Quartet』を収録する。その後マイルス、セロニアス・モンク、マックス・ローチらと共演し、1950年代にはハード・バップを代表する存在となった。▼ヘロインで苦しんだが、1955年からクリフォード・ブラウンとマックス・ローチのバンドで活動を再開し、再びバンド・リーダーとして再起する。▼1957年に『サキソフォン・コロッサス』をリリースし、一躍知名度を上げた。中でも、「セント・トーマス」は、生涯ロリンズの重要なレパートリーとなり、多くのジャズ・ミュージシャンやジャズ・ファンにも愛される曲となり、ジャズ史上の最高傑作の一つとなった。▼50年ほど前、ロリンズの演奏を聞いた。男くさいパワフルなテナーの音にジャズキチのおじさんたちが熱狂するシーンは今でも忘れられない。▼ロリンズの最大の特徴は、メロディーを自在に変形させながら長時間にわたり物語のように展開する即興演奏だ。多くのサックス奏者に絶大な影響を与えた。ソニー・ロリンズは「テクニクの名人」ではなく、「常に自分を磨き続けた探求者」として尊敬されてきた。多くのミュージシャンから「最後のジャズ・ジャイアント（最後の巨人）」と呼ばれる存在であった。▼一方2026年は“ジャズの帝王”と称され、65年の生涯で音楽史を革新し続けた伝説的アーティスト、マイルス・ディビスが、生誕100周年を迎えた。▼マイルスの偉大さは、「一つのスタイルで成功しても、決してそこに留まらなかった」ことだ。彼は約50年にわたり、ジャズを何度も進化させてきた。▼ジャズトランペットといえばデジー・ガレスピーのようなハイトーンでバラバラ吹くイメージがあるが、彼は極めて音が少ない演奏する。神経質でスリリングで一つも妥協を許さない完璧主義者だ。（と思う。）それが彼のスタイルだ。ルイ・マルの映画「死刑台のエレベーター」を御存じだろうか。スクリーンを見ながら即興で挿入曲を録音したことは有名な話だ。▼彼の業績はクール・ジャズの誕生だ。1940年代末、アルバム「Birth of the Cool」で、激しいビバップとは異なる抑制された美しいサウンドを生み出した。そしてモード・ジャズを完成させ1959年発表の「Kind of Blue」は、世界で最も売れたジャズ・アルバムとして知られている。シンプルなコード進行の上で自由に即興演奏する「モード・ジャズ」を確立し、その後のジャズの方向性を変えていった。またジャズ・ロック、フュージョンの開拓へと進化するのである。1969年の「Bitches Brew」では、ロックのリズムや電子楽器を導入。ジャズ・フュージョンという新しい音楽を生み出し、後の音楽シーンに大きな影響を与えた。▼ジャズの巨匠マイルス・ディビスとセロニアス・モンクが出会った時、音楽史上で最も話

題を呼んだレコーディング・セッションの一つが生まれた。それが名盤『バグス・グルーヴ』。1954年に録音され、1957年にプレスティッジ・レーベルから初リリースされた不屈の名盤である。テイク2ではマイルスのソロが終わりモンクは途中で演奏をやめてしまう。聴こえてくるのは、ベースとドラムの音だけ。さすがに異常を感じたマイルスが、ソロを促すようにトランペットを吹くと、モンクは突然人が変わったように、何かに取りかかれたようにピアノを弾き始めるのである。モンクのピアノは調子っぱずれのいわゆる、さみだれピアノと言われる音だった。マイルスは彼の実力を認めながらもどうしても彼の音楽性を相容れられなかったようだ。マイルスが、大先輩セロニアス・モンクに対して、「私のソロの部分では、バックでその変なピアノを弾かないでくれ」とお願いしたそう。しかし、これを聞いたモンクはさすがに激おこし、殴り合いの喧嘩になった、という話も逸話として残っている。いわゆる「クリスマスイブ喧嘩セッション」である。

▼72年ころ、マイルス・ディビスが来日した時、私はジャズフュージョンを取り得た電化マイルスがどうしても受け入れられなかった。迷った末、とうとうコンサートには行かなかった。先日「Bitches Brew」を聞いた。とんでもなく素晴らしい演奏だった。ああ、あの時やっぱりコンサートに行っておけばよかったと後悔している。もうマイルスの生の音は聞けない。ジャズ好きの爺さんの独り言でした。お付き合い有難う。(郷記)



Kensetsu News

2026/05/19 許可業者数 25年度末集計、3年連続増で48・4万者／新規取得が回復

【建設工業新聞 05月 18日 2面記事掲載】

国土交通省は15日、2025年度末（26年3月末）時点の建設業許可業者数を発表した。総数は48万3823業者。11年度末以来13年ぶりに48万業者を超えた24年度末時点から、わずかだがさらに増えた。この1年は廃業・許可失効が前年度比で大幅に増えたが、許可の更新期を迎える業者が多いタイミングだった影響が大きい。22年度から年1・6万業者台が続いていた新規の許可取得は1・8万業者台に回復した。

許可業者数の増加は3年連続。24年度末から123業者が増え、増加率は0・03%だった。総数はピークだった1999年度末（60万0980業者）から2割ほど減っているが、底を打った17年度末（46万4889業者）から徐々に回復している。

25年度の新規許可取得は前年度比1957業者増の1万8121業者。5年ぶりの増加、過去10年で5番目に多い数となる。廃業・許可失効は6151業者増の1万7998業者。内訳は実際に廃業を届け出たのが1021業者増の8273業者、更新手続きを行わず自動的に失効したのが5130業者増の9725業者だった。許可制度の運用上の都合で更新期を迎える業者が多い時期に当たった影響からか、自動失効は2倍以上に増えた。

許可業者数のうち一般許可は438業者減の45万7617業者。特定許可は772業者増の5万0511業者。特定許可は06年度末以来19年ぶりに5万業者を超えた。この1年の業者数の増減を29の業種区分別に見ると、増加は23業種で減少は6業種。「解体」「塗装」「内装仕上」の3業種は増加数が2000業者を超えた。許可の承継制度を活用した事業承継認可は25年度に1092件。20年度の制度創設以降、年1000件前後で推移している。

2026/05/27 厚労省／無人機遠隔運転は1人1台／安全対策考え方案

【建設工業新聞 05月 26日 2面記事掲載】

厚生労働省は25日、機械の無人運転に関する安全対策の考え方の案を専門家検討会に示した。トラブル発生時の立ち入りを除き、機械だけの作業を前提に管理する区画を「立入等管理区画」と定義し、労働災害のリスクに応じた接触防止などの措置を講じたり、遠隔運転と自律運転を分けた上で遠隔運転は1人が一度に運転できる機械を1台にしたりする考えなどを示した。委員の意見を踏まえ、引き続き対応を議論していく。

厚労省は「機械の無人運転における安全確保等に関する専門家検討会」の7回目の会合に、区画の考え方、「人と機械の混在」に対する措置などの案を提示し、意見を求めた。

人と機械が混在する環境の中で、立入等管理区画は作業ごとに一定の時間で変化すると捉え、標準的な区画は建設業や農林業などの業態ごとに検討するとした。同区画は発注条件などを踏まえて作業する事業者が決定し、作業計画の初期に設定する。発生する可能性のある災害の重篤度を含めたリスクを評価し、対策が妥当か第三者が認証するとした。

通常運転時に運転制御の主体が機械側にあり、人の関与が監視および緊急停止となるのが「自律運転」、運転制御の主体、運転操作とも人となるのが「遠隔運転」に分けた。異常に即座に対応する運転者に運転の主導権が移る場合は自律運転に該当せず、補助機能の位置付けとなる「運転支援機能」とする考えも示した。

自律運転と遠隔運転それぞれに適用する法令は異なり、両方の機能のある機械は自律、遠隔の運転の「モードに応じた法令が適用」とした。運転者・監視者が関与する台数は、遠隔運転は「1人が一度に運転可能な機械は1台」、自律運転は「通常運転時は複数台の機械に関与することが可能」と整理した。

検討会は、区画と運転制御方式の考え方、区画と運転制御方式ごとの安全確保の基本的な枠組み、人と機械の混在に対する必要な措置などを引き続き検討し、中間取りまとめを策定する。厚労省は中間取りまとめを踏まえ、関係団体と連携しながら作業チームで機械ごとに必要な対応を検討することを視野に入れている。政労使の代表者のいる審議会で現行規制を見直していく。

2026/05/28 国交省／工事・成果物に求める「品質」整理必要／総合評価方式見直し検討で方向性

【建設工業新聞 05月 28日 1面記事掲載】

国土交通省は、直轄工事の入札で運用する総合評価方式の見直しに向けた検討の方向性を固めた。施工能力や技術提案の「評価」の良しあしが、工事や完成物の「品質」にどう関係しているかに焦点を当てて現状を検証する。完成後一定期間が経過したインフラの状況を見て、入札時の技

術提案がどう反映されているかなどを確認する。有識者に意見聴取を始めており、発注者として求める「品質」を明確に定義付けする必要性などが指摘されている。

学識者や建設業団体で構成する「発注者責任を果たすための今後の建設生産・管理システムのあり方に関する懇談会」（座長・小澤一雅政策研究大学院大学教授）の27日の会合で説明した。国交省は現行の総合評価の運用状況を分析。工事成績の観点で工事の品質向上に寄与している一方、完成物の耐久性や長期の機能発揮などインフラそのものの品質向上への貢献を「明確に確認できていない」と問題提起している。

今後の検証では多義的な捉え方がある「品質」を、工事成績と完成後の状況の二つの視点で確認する方針だ。入札時の技術提案などの評価と照らし合わせ、提案が品質向上につながっているかどうかを把握する。

有識者からは単純な工事品質にとどまらず、それ以上の「品質」を発注者が求めるのであれば、それを整理し明らかにすべきだとの指摘が相次いだ。制定当初は工事そのものの品質を念頭に置いていた公共工事品質確保促進法（公共工事品確法）の射程が、担い手の確保・育成や働き方改革の推進に広がっている。総合評価で扱う品質の範囲があいまいになっている現状をいったん整理する必要性が高まっている。

新規参入より事業者撤退が目立つ市場では純粋な競争政策の有効性は落ち、産業政策の融合が必要だとの指摘もあった。建設産業の現状と将来展望を踏まえ、今後の調達方式の検討を求める声も上がる。

国交省は今後の検討の参考にするため、受発注者の認識などを把握するアンケートを年度内に行う方針も示した。評価と品質の関係性などで現場の声を拾い上げるとともに、総合評価全般で現状の課題や改善意見を幅広く聞く。受注者側は日本建設業連合会（日建連）か全国建設業協会（全建）会員の直轄工事に入札する会社が対象で、実作業に携わる担当者個人の意見も求める。総合評価の手続きで発生する受発注者それぞれの事務負担の実態などを把握する。

2026/05/29 国交省／クマ被害防止徹底、対策費の適切計上を通知／砂防関係事業など安全確保を

【建設工業新聞 05月 29日 1面記事掲載】

国土交通省は、山間部などで実施する測量業務や砂防施設の点検・管理、工事などについて、クマ被害の防止対策を徹底するよう地方整備局などに通知した。昨年11月と今年5月、都道府県などを含め事務連絡を出した。想定する対策はクマ鈴や撃退スプレーの配備、箱わなの設置、ハンターの同行、講習会の実施など。受発注者間での協議を促し、現場条件に応じた安全対策費を適切に工事費へ反映するよう求めている。

東北地方を中心に、クマの出没や被害が相次いでいることが背景にある。特に砂防施設の点検や調査、工事は中山間地で実施されるケースが多く、河川や道路の事業に比べクマとの遭遇リスクが高い。

通知は、直轄事業に加え、都道府県が実施する砂防関係事業も対象としている。昨年11月の通知では、▽自治体などとの情報共有体制の強化▽クマ鈴やクマ撃退スプレーなど対策用具の必要数の配備・携行▽複数人での作業や通信可能範囲を考慮した行動▽専門家による講習会や訓練の実施▽ごみの放置防止などクマを誘引しない環境整備—などを求めた。環境省が公表している

マニュアルも参考資料として示した。

15日付の追加通知では対策の必要経費について、現場条件などを踏まえた上で「必要と認められる場合、適切に工事・業務契約へ見込む」よう求めた。通常的安全対策費は共通仮設費などに含まれているが、ハンターの同行や箱わなの設置など、一般的な積算を超える対応は受発注者で協議し、必要経費として計上できるようにした。

特に、測量や現地調査など少人数で山間部に入る場面のリスクを想定している。国交省水管理・国土保全局砂防部の土屋峰人課長補佐は、クマの出没などで作業を中断した場合について、「必要に応じて工期延長もあり得る」との認識を示した。これまで直轄砂防事業でクマ被害は把握していないものの、現場での目撃や遭遇事例はあるという。

春以降、冬眠明けのクマは活動が活発になる。山間部での工事も本格化することから、国交省は注意喚起を一層強めている。



仕事の手を休め、リフレッシュしては・・・(第135号)

◆国語の問題

問題1 次の口に漢字を一文字入れて熟語を完成しなさい。

■	反	■
名	□	玉
■	先	■

■	白	■
青	□	力
■	石	■

■	不	■
学	□	題
■	診	■

■	専	■
所	□	名
■	益	■

問題2 次の漢字を組み合わせて熟語を完成しなさい。

月 + 羊 + 日 + 魚 ()

子 + 平 + 女 + 言 ()

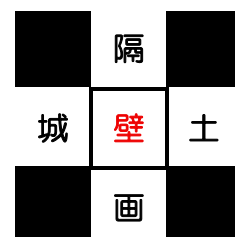
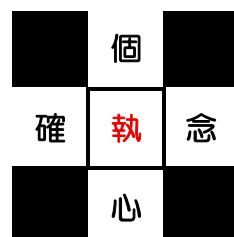
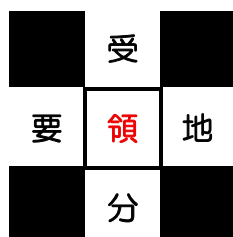
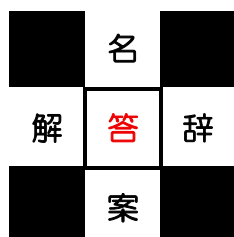
心 + 頁 + 原 + 今 ()

心 + 女 + 亡 + 木 + 目 ()

第 134 号の解答

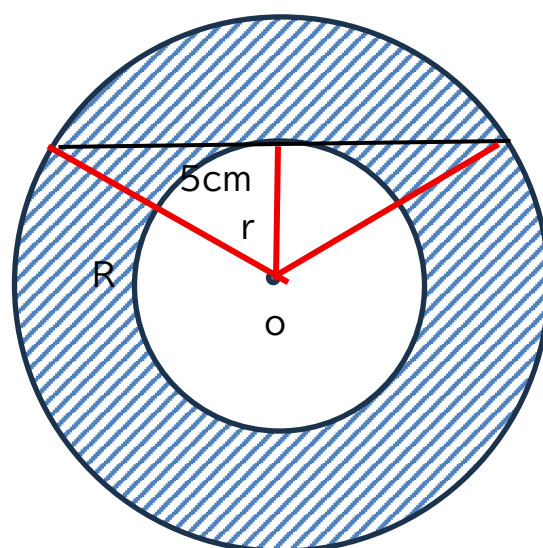
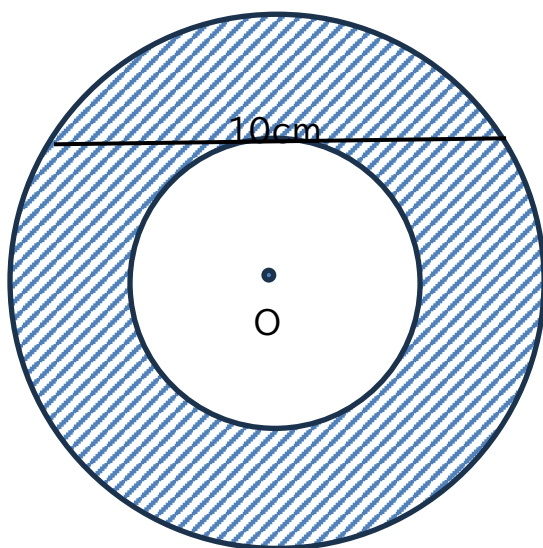
◆国語の問題

問題 1 次の口に漢字を一文字入れて熟語を完成しなさい。



◆数学の問題

問題 1 次の図の斜線の部分の面積を求めなさい。点 O は円の中心。



$$\begin{aligned} \pi R^2 - \pi r^2 &= X \\ (R^2 - r^2) \times \pi &= X \\ \text{ピタゴラスの定理より} \\ R^2 - r^2 &= 5^2 \\ 25\pi \text{ cm}^2 \end{aligned}$$